

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900052		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホーム高梁		
所在地	岡山県高梁市落合町阿部2215-3		
自己評価作成日	令和 5年 8月 12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 5年 12月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく開放的で日当たりの良いリビングと、季節に応じて変化を間近に感じられる施設。入居者ご自身のペースで過ごして頂けるよう、話を傾聴し、個々のニーズに応えるよう務めている。安心と安全を考え、日常生活が落ち着いたものとなるよう、ケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームで働く職員は、入居者の表情や様子がいつもと少し違うと感じた場合、その観察からの気づきを大切に、ケアに反映させる様に努めています。また、日頃から職員同士がよく声を掛け合い、業務を補完し合いながら働いているチームワークの良さが窺えます。一日の流れも入居者の意向に添いながら、職員一人ひとりが自ら構築していく柔軟な対応力が見受けられます。災害対策に関して、ホーム独自の避難訓練だけでなく、地域の防災訓練に参加する等、日頃から地域関係者と連携を図っており、災害時に地域住民の協力が得られる支援体制を構築しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識しながら、職員で話し合っ、安心、安全、心楽しい日常生活を送って頂けるように、努力、検討をしている。	理念を玄関先に掲示し、外部の人にもホームの方針を明示しています。職員は入居者が毎日笑顔で過ごせる事を大切に支援しており、理念が実践に繋がる様に取り組んでいる様子が窺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は、コロナ禍の中であまり出来ていないが、業者の利用、運営推進委員会等あるが、それ以上のつながりはない。	感染症流行以前は子供神輿が訪れる等、地域と交流する機会がありました。現在は地元の豆腐屋や食品卸業者の訪問販売の機会に、職員と入居者が一緒に商品を選んだりして交流を継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、説明、状況を伝え、地域ボランティアの受け入れ等で、認知症の人の理解や支援に向けていけるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行われているが、コロナ前より、サービスの実践等は減少しているが、今後開催が出来ると思込める。	会議を共用空間で開催しており、生活の雰囲気やホームの取り組みが伝わる様に工夫して取り組んでいる様子が見受けられます。感染症流行が落ち着けば、家族にも参加を呼びかける事を検討中です。	家族や地域の方にも積極的に運営推進会議への参加を呼びかけ、ホームの実情を知ってもらうと共に、参加者の意見や要望をサービス向上に活かす取り組みに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係が築けるように、取り組みに努めている。	制度上の不明点があれば、すぐに電話で確認するように努めています。運営推進会議に必ず市町村担当者が出席しており、会議を通じてホームの実情を知ってもらう様に取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の施錠はしていない。身体拘束をしないケアが出来るよう取り組んでいる。研修への参加も行っている。	声のトーンや伝え方等、入居者が不快と感じる事のない声かけを心掛けています。職員間でもお互いが感じた事を注意し合っており、適切なケアが実践できるように取り組んでいる様子が見受けられます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会、ミーティングに参加し、定期的に話し合いをしている。利用者の状況変化に気づけるよう観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会がない。学習の機会を検討しており、今後の支援に活用していきたい。ミーティングや研修などの参加をしたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族の不安、疑問点等管理者が説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉を傾聴し、意見に寄り添いながら家族への連絡を取る等、運営に反映させている。	LINEを活用し、文章に画像や動画を添付し、生活の様子を家族に伝える取り組みを行っています。意見や要望を表せる機会の一つとして、今後家族も運営推進会議に参加できるよう呼びかけることを検討中です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談の機会はありませんが、ユニットリーダーが日々の業務の中で職員の意見や提案を聞く様に努めている。	管理者が兼務体制(サテライト型事業所)の為、主にユニットリーダーが職員の意見を聞き、管理者に伝えていきます。管理者は管理者会議を通じて、代表者に職員の意見や要望を伝えていきます。	現在の少ない職員数の中で、様々な工夫により入居者が安心して生活を送る事ができています。これからも入居者の笑顔を守っていく対応に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	責任者としてできる範囲内で、職員との対話等を行っている。またその内容を会議等で代表者へ伝えよりよい就業環境となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会をつくり、多くの職員が参加できるように促している。未経験者には、分かりやすく指導を行い、少人数でも働きながらスキルアップ出来るようにしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で、交流が出来ていなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを十分に行い、利用者が困っていること、要望に耳を傾け、しっかりと話を聞き、職員で共有し、本人の安心を確保できる関係づくりに心かける。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、要望、不安等に耳を傾け、信頼関係が築けるように、その都度、説明し理解をしていただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談時、家族とよく話し合い、サービスの利用、支援の内容等を聞き、対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員という関係ではなく、共に生活する者として、良い人間関係になるように心掛け支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会が出来なかったが、徐々に面会が出来るようになったので、面会時に毎日の生活状況を伝え、安心して頂けるようにする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話での会話を行っている。家族や友人の話を聞く等、関係が途切れないよう努めている。	日々の会話を通じて、本人が大切にしてきた馴染みの人や場所の把握に努めています。友人との電話を取り次ぐ等、繋がりが途切れないように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりに職員が入り、一人ひとりの活動や、共同作業、レクリエーション等で利用者の関わりが出来るよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナもあり、外部との関係は希薄になっている。必要に応じて、本人、家族からの希望に添って対応するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や、様子などから一人ひとりの思いや、希望、意向を把握出来るよう検討している。	入居者の仕草や表情をよく観察し、意向を把握する様に努めています。「帰りたい」と訴える入居者に対しそのまま返答するのではなく、「なぜ」に関心を抱き関わる事を大切にしています。入居者の思いを汲み取りように努めている様子が窺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等は入所前に出来る限り把握できる様に努め、本人との関わりの中で情報収集を行ったり、家族からの情報を聞いたりして把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り等で個々の一日の様子の情報交換を行っている。いつもと変わらないか、変化に気づけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が本人の様子等を観察・傾聴してアセスメント、モニタリングを行い、本人がより良く暮らせるためには、どうしたら良いか話し合い、ケアを行っている。	モニタリングはフロアの職員全員で意見を出し合いながら行っています。日々のケアの気づきをテーマにしたカンファレンスを開催して、意見やアイデアを出し合っており、現状に即した介護計画となる様に取り組んでいる様子が窺えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた事、思いや言動をそのまま記録し、これらをもとに情報の共有を図り改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人に合ったサービスが提供できるように、一人ひとりのニーズに合わせ、出来る事について、柔軟な対応が行えるよう心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	把握できないが、地元職員の確保や情報収集に努めている。日頃の生活の中で安全に笑顔で過ごせるようにする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望を伺い、訪問看護や協力医療機関と、事業所の関係を築きながら、相談、助言を得ながら対応している。	入居前のかかりつけ医による継続的な医療が受けられる様に本人や家族に勧めています。現状約半数の入居者が通院しており、家族が受診する際、医師に情報提供シートを提出し適切な医療が受けられる様に取り組んでいる様子が窺えます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の気付きや訴えなどから情報を提供し、適切な看護・受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先とご家族との連携が出来るよう、情報交換し、安心して治療が出来るよう相談等行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度、説明し相談に応じている。入所時に、ホームの指針を話し、理解を頂いている。	現時点では看取りの受け入れを行わない方針です。重度化や医療処置が必要になりそうな場合、これからの対応について必要に応じて医師も交えながら、本人や家族と早期に話し合う機会を設けるように努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今までは、定期的に講習・受講が出来ていなかったが、今後定期的に行えるように実践し、身につけていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、定期的に行っているが、天災に対する対策はあまり出来ていない。利用者が安全に避難出来るように、全職員が把握出来るように努めている。	災害時の避難誘導に備え、職員は両ユニットの状況把握の為、普段から交流を行っています。ホームの避難訓練だけでなく、地区の防災訓練に職員が参加する等、地域の人々と協力体制を築き取り組みが見受けられます。	自然災害発生時の対策を含めた業務継続計画を作成すると共に、これからも地域(消防団等)と協力しながら、入居者が安全に避難できる災害対策への取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助時は、ご本人の顔を見て声掛けし、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損なわないように工夫し、声掛けをする。居室はもちろん、トイレ等も必ずノックをし、声掛けをしている。	食事の準備等、入居者に何か作業を頼む時には丁寧な言葉を選んで依頼しています。作業後に必ず感謝の気持ちを伝えており、入居者の自尊心や尊厳に配慮した言葉かけを実践している様子が窺えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や自己決定をして頂けるような声掛けをしている。言葉で表現出来ない方も多いが、気持ちをくみ取り対応出来るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活も必要なので、一日の流れはあるが、無理をせず利用者様のペースに合わせて、臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思を尊重し、自由に楽しめるようにしている。季節に応じ、家族が持って来られた服を着てもらっているが、職員が用意することの方が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食べたいものを聞き、好みの献立に変える事もある。個々の出来る能力を活かせるように取り組み、一人ひとりの状態に合わせて食事量等の制限をしている。	自施設調理で入居者の要望を柔軟に献立に反映させています。食事形態も本人の能力や好みに応じた個別対応に努めています。野菜の下処理や食器拭き等、日々入居者一人ひとりの力を活かしながら食事を楽しむ工夫が見受けられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて提供している。食事・水分量の制限のある中で、無理なく摂取出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、個々の状態に応じ介助等行っている。週2回の義歯洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化が進んでおり、トイレでの排泄は困難になってきている中で、一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導や、声掛けを行っている。	定時に声かけや誘導を行う画一的なケアではなく、本人の表情や仕草もよく観察して声かけや介助を行う事で、可能な限りトイレでの排泄が出来る様に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分量の調整をしたり、医療機関で必要に応じて薬の処方をお願いし、服薬してもらう。食べ物の工夫にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に合わせての入浴は出来ないが、定期的に入浴はしてもらっている。	基本的には入浴日を事前に決めていますが、拒否があった場合、時間を空けて再度お誘いする事や翌日に振り返る等、本人の意向を大切に関わっている様子が窺えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況や気分に合わせて、休息したり、安心して気持ちよく寝れるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況や、その日の体調等を確認し、処方された薬の調整を行う。処方変更等あった場合は、申し送り等で全職員が把握出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみ事は異なるが、反応を見ながら出来る事をしてもらう。外出は出来ないが、散歩やレクリエーション等を職員が考え、楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出が出来なかったが、これからは少しずつでも、短時間でも外出が出来るよう支援に努めている。	敷地内の散歩を通じた外気浴等、日常的な外出機会があります。外出に向かない日(猛暑日や冬季、悪天候時)でも、短時間窓を開けて外気に触れる機会を作る等、五感刺激や気分転換を図る工夫が見受けられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持つことは困難な為、ご家族に連絡したり、施設側が必要に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は、居室内で自由に使用されているが、他の利用者様は、希望があればその都度、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、清潔に保てるよう心掛けている。車いす、シルバーカーなど使用する利用者様がスムーズに動けるよう工夫している。	掃除や整理整頓が行き届き、開放的ですしつきりとした印象の共用スペースとなっています。訪問した日、数名の入居者が主体的に塗り絵に取り組んでいる姿が見受けられ、その人らしく過ごせる環境となる様に工夫している様子が窺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読んだり、テレビを見たり、気の合った利用者同士で話をしたり、レクリエーションを一緒に行い、楽しめるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類、寝具など、ご本人が使い慣れた物や、好みの物を持ち込めるようにしている。	本人が居心地良く過ごせる空間となる事を大切に考え、使い慣れた寝具や大切な品物の持参を積極的に勧めており、その人らしい空間作りを目指した取り組みが見受けられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室等が分かりやすくなるように、ネームプレートの横に目印になる物を付けたり、分からない方には声掛け、誘導をするよう心掛けている。		